

北海道バレル

森林資源と技術継承そして風土を語るお酒へ

株式会社北海道バレル 竹次 修



株式会社北海道バレル（以下、北海道バレル）は、2025年3月に設立された道内初の酒樽専門メーカーです（表1）。本社を旭川市に、オフィスを札幌市に構え、家具製造で培われた木工技術と北海道産広葉樹を活用した樽製造を通じて、地域資源の価値を高める事業を展開しています。本稿では、弊社の事業構造、技術的特徴、地域との関係性、そしてリジェネラティブ（再生型）思想との融合について表記させていただきます。

表1 会社概要

社名	株式会社北海道バレル (HOKKAIDO BARREL Co., Ltd.)
設立	2025年3月10日
所在地	本社：旭川市永山北3条6丁目1-78 札幌オフィス：札幌市中央区北8条西13丁目28-21 エア・ウォーターの森3F
代表取締役	会長：藤田哲也 社長 竹次 修
事業内容	樽の製造・修繕・販売・商品研究開発など地域資源の活用と製造
製造	株式会社カンディハウスへ委託し、家具技術を応用した樽製造
集材	株式会社ノーザンフォレストによる北海道産木材の安定供給とトレーサビリティ確保



1. 事業の背景と設立経緯

北海道バレルの設立は、旭川家具業界の新たな可能性を模索する中で生まれました。カンディハウス藤田会長が、樽需要の高まりと家具製造で培った技術を酒樽製造に応用できると着想したことが始まりです。2023年11月に素案が提出され、12月には第1回ミーティングが開催されました。以降、道内外の蒸留所や酒造施設の視察、試作樽の製造、地域材の活用方法などを経て、2025年1月にプロジェクトメンバー全員で事業化を決定しました。

北海道バレルの前身～旭川樽プロジェクト

- ・カンディハウス
- ・旭川家具工業協同組合
- ・新宮商行
- ・空知単板工業
- ・旭川工芸センター
- ・道総研林産試験場
- ・旭川産業創造プラザ
- ・Back&Forth
- ・ノーザンフォレスト



2. 製造体制と技術的特徴

製造は出資会社であるカンディハウスとの業務提携により、家具製造技術を応用した高精度な木工技術が活かされています。特にサネ加工組みや曲面カンナによる外面処理など、家具製造で培われた技術が樽製造に転用されています。焼入れ作業によるチャーリング工程も含め、これらにより漏れにくく蒸発しにくい高品質な樽を設計しています。

また、道総研林産試験場や食品加工研究センターとの連携により、技術面での検証と改良が継続的に行われており、製造工程の科学的裏付けも強化されています。また、ガスクロマトグラフ質量分析による香気成分の測定など、樽材による香りの違いが数値的に示され、製品開発に活用されています。

HOKKAIDO BARREL LAUNCH RECEPTION (2025.7.26)

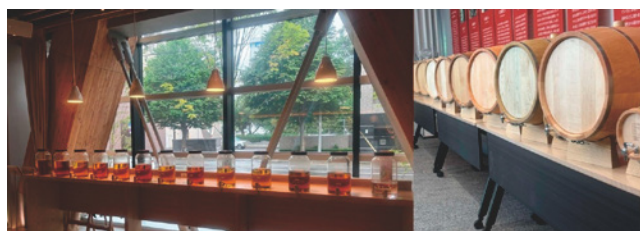
それぞれの樹種に対する感想

※	ナラ	タモ	ニレ	セシ	カバ	サクラ
1	13	5	5	4	5	10
2	8	9	10	6	5	11
3	1	3	4	7	6	2
4	0	3	1	2	5	0
※	ハン	キハダ	イタヤ	シナ	クルミ	アカシア
1	2	9	3	3	8	12
2	2	7	5	8	6	12
3	11	6	5	5	5	1
4	2	1	3	3	1	2

※1:味が好み、2:香りが好み、3:好みではなかった
4:試飲していない

3. 北海道産広葉樹の活用と地域性

北海道バレルでは、ミズナラ、サクラ、ニレ、セシ、タモ、カバ、ハン、シナ、キハダ、アカシア、クルミ、イタヤなど、12種類以上の北海道産広葉樹を使用しています。これらの樹種は、地域ごとの風土や森林資源を反映しており、蒸留所の立地と同じ地域の木材を使用することで、お酒に土地の物語性を付加することが可能です。



12樹種の樽と試飲会

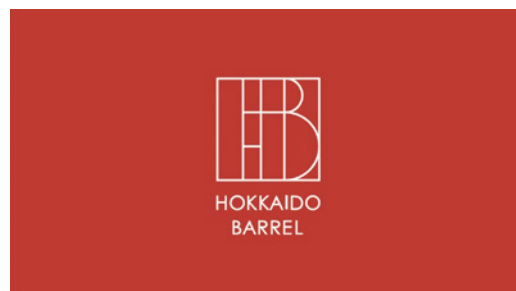
さらに、ノーザンフォレストによる集材体制により、トレーサビリティを保った木材供給が確立され、樽の品質保証とブランド価値の向上に寄与しています。また、ICタグの活用により、樽の履歴管理や中古樽の再販も計画しており、信頼性の高い製品流通を目指しております。

集材した広葉樹丸太を産地ごとに管理
RFID → 木製品のトレサビリティを明確にする
産地を明確にすることにより、製品価値を上げて供給する（取組み中）



4. デザイン・思想・展望の統合的考察

北海道バレルの樽は、家具メーカーならではの美しい仕上がりでデザイン性を備えています。クリエイティブディレクションをBack & Forthが担当し、ブランディングや発表の場においてもデザイン思考が導入されデザイン経営を実践しています。家具製造で培った切削・加工・組立技術が細部にまで活かされており、他社製品との差別化が図られています。



また、弊社の事業は、単なる製造業を超えて、地域資源の再評価、職人技術の継承、環境負荷の少ない製造プロセスなど、リジェネラティブ思想と深く響き合っています。木を使うことで森を育て、地域の職人と連携することで技術を継承し、製品を通じて地域の物語を世界に発信するという営みは、環境・文化・経済・人のつながりを再生する活動そのものです。

初期製品として2.5Lおよび30L樽を展開し、現在250L樽の製造に取り組み中で、2026年には試験を重ね発売予定です。将来的には、旭川地域での協力工場と連携し、樽製造を地域産業として発展させる構想を描いています。道内には70以上のワイナリー、19のウィスキー蒸留所が存在しており、これらを主要な販売先とすることで、地域内循環型の産業モデルを構築すると共に、世界中の酒造メーカーへ北海道バレルの樽を広められると信じております。

まとめ

北海道バレルの事業は、地域資源の高度活用と技術革新、そして文化的価値の創出を融合させた先進的な取り組みです。家具木工技術と広葉樹の融合による酒樽製造は、地域の風土を醸す器として、国内外の酒造業界に新たな価値を提供する可能性を秘めています。今後の展開においても、リジェネラティブな視点を持ち続けることで、北海道の自然と人の営みを次世代につなぐ持続的な産業モデルとなるように推進いたします。